

開催日	平成24年12月4日 火曜日	会議時間	開会 13:30 閉会 16:00
会議場所	ニセコ町民センター研修室1	記録者	総務課総務係 主事 稲見唯睦
出席者	委員 林知己委員長、青山貞一委員、小松弘幸委員、斉藤海三郎委員、 矢野正裕委員、福田房三委員、高瀬達矢委員、加藤紀孝委員 事務局 総務課 千葉敬貴参事、稲見唯睦主事		
欠席者	藤田明彦委員、牧野雅之委員		

会議日程

(1) 報告

- ① 委員会の組織構成及び調査検討事項について（委員追加後）・・・ 資料1
- ② 第1回原子力防災専門委員会議事録について・・・ 資料2
- ③ 原子力防災対策指針について・・・ 資料3
- ④ 原子力災害対策指針についての意見（青山貞一氏）・・・ 追加資料①
- ⑤ 地域防災計画（原子力災害対策編）  
 作成マニュアル（市町村：案）について・・・ 資料4
- ⑥ 国及び北海道の動向について・・・ 報告冊子等

(2) 議事

- ① 本町における退避・避難に関する考え方について・・・ 資料5
- ② 意見交換
  - ・ 矢野正裕委員「泊原子力発電所事故時のニセコ町における事象について」  
 ・・・ 追加資料②

③ その他

会議内容

13:30 開会 <委員長挨拶> 林委員長からの開会の挨拶 <報告> ① 委員会の組織構成及び調査検討事項について（委員追加後）・・・ 資料1 ② 第1回原子力防災専門委員会議事録について・・・ 資料2 ③ 原子力防災対策指針について・・・ 資料3 ④ 原子力災害対策指針についての意見（青山貞一委員）・・・ 追加資料① ⑤ 地域防災計画（原子力災害対策編） 作成マニュアル（市町村：案）について・・・ 資料4 ⑥ 国及び北海道の動向について・・・ 報告冊子等  1. 各報告での各委員からの主な意見 ① 委員会の組織構成及び調査検討事項について ・ 今回専門委員として中央連合会長の小松委員が加わったが、他の自治会の協力も得て、地域の実情を計画に活かす必要がある。 → ニセコ町の広報誌やヒアリング実施などによって情報を得たいと考えている。 ・ ニセコ町の広報誌は自治会に入っていない人へは届かないため、原子力防災のように多くの町民の参加が望ましい事柄の場合、対応を考える必要があるのではないか。 → 引続き住民へ意見募集や様々な方法での情報提供を実施する。 ② 第1回原子力防災専門委員会議事録について
---

- ・ 第1回専門委員会議事録に係わる町民からのご意見があったが、ニセコ町のホームページ等で回答する必要があるのではないか。(町の原子力防災に係わる)不信を抱いたままではよくない。
  - ご意見を再考した上で回答をニセコ町ホームページ等に掲示する(後日)。
- ③原子力防災対策指針について
- ④原子力災害対策指針についての意見(青山貞一氏)・・・・・・・・追加資料①
  - ・ 国の指針を活かす方法を考えるべきではないか。国、北海道、ニセコ町、全体が取り組むべきことを整理した上で、町がすべきことを具体的に議論する必要がある。
    - 「原子力災害対策指針についての意見」の報告は、ニセコ町を想定して、ニセコ町に必要な事柄を記している。
    - 今日の議事でも町の地域性・特殊性を踏まえた上で、町がすべきことを具体的に議論する。
- ⑤地域防災計画(原子力災害対策編)作成マニュアル(市町村:案)について
  - ・ 原子力防災計画には、国や道から配付された参考のための原子力防災計画マニュアルよりも細かい内容を記述していく必要がある。基礎自治体に大きな裁量があるといえる。
    - 同感であり、あくまでもマニュアルであるので町として出来ることを多く盛り込む必要がある。
- ⑥国及び北海道の動向について
  - ・ 広域避難の基本的な考え方について教えてください。
    - 道は当面(仮)の設定としてニセコ町の広域避難場所を札幌市厚別区・白石区としているが、道も引続き検討している。必ずこの広域場所に行くということではない。原子力防災に係わる事項を総合的に検討。
  - ・ 的確に風向情報を得られるようにする必要がある。
  - ・ 原子力防災の退避・避難計画を作るとき、原子力発電所事故シミュレーションの風向別など想定して、パターン別に計画を作る必要がある。
  - ・ 泊発電所の形状を考慮して、大きな爆発を想定した避難場所や避難する距離を検討する必要がある。
  - ・ 安定ヨウ素剤の実効性の確保する必要がある。勉強会を実施してはどうか。
  - ・ 国の指針や道の計画を論点整理・分かり易くした内容を提示する必要があるのではないか。

#### <議事>

##### 1. 本町における退避・避難に関する考え方について

##### ①原子力災害時の避難における自家用車利用について

- ・ 大型バスを避難手段として利用した場合、必要なバスは確保できるのか。
  - 道では必要なバスを用意出来るとしているが、利用するまでの時間はまだ把握出来ていない状況。
- ・ バスに乗る場合でも優先順位、子供、幼児、妊婦、この人たちを優先するが合理的。
- ・ 防護マスクを配付することによって、原子力発電所事故による内部被ばくを大きく防ぐことができる。
- ・ 石巻市大川小学校の事故の例もあり、臨機応変に避難できる仕組みも必要。
- ・ 避難時の自家用車の利用は必要。

②町の地域固有の自然条件や社会的周辺状況留意点について

- ・ 冬期の道路で、雪が吹溜りやすい場所というのは把握しているか。  
→ 担当の建設課土木係および担当地区の除雪業者が把握している。
- ・ 平時から、泊発電所周辺、ニセコヘリポート、町内もう一箇所の風向を計る場所が必要であり、ホームページで公開した方がよい。

矢野正裕委員からのご意見（概要）

「泊原子力発電所事故時のニセコ町における事象について」・・・・・・・・追加資料②

- ・ 原子力発電所の事故時の過酷な状態（想定）について検討することが必要。
- ・ ニセコ町の地理的要因として、冬期の大雪、羊蹄山麓の風向きは複雑、町外と接続する道路は限定的かつ山岳路、このことが考えられる。
- ・ 町外への避難経路が限定的であることから十分な時間が必要であると考えられる。
- ・ 風向きによってニセコ町方面の影響が大きくなる可能性がある。
- ・ 雪の影響を検討する必要があり、除雪、放射線濃度、避難など様々な影響があることが考えられる。
- ・ 原子力発電所の事故の状況（時間軸考慮）を想定した明確な避難基準を考える必要があるのではないか。  
→ 避難経路、雪の影響、避難、適正な根拠を基にして考える必要がある。

なお、矢野正裕委員が提示したご意見書を閲覧希望の方はニセコ町役場総務課にて配付します。

③放射性物質拡散シミュレーションシステムの活用について（詳細は別の機会に議論）

- ・ 放射性物質拡散シミュレーションシステムの基礎データや理論など概要を青山委員が報告。

以上